

夏休み学習会「沖縄にすむヘビー毒ヘビ、ハブをみわけよう」を開催しました

はじめに

沖縄県には20種類以上のヘビが生息しており、その中で特にハブ、ヒメハブ、サキシマハブそして台湾ハブの4種は強い毒を持つため、危険な毒ヘビです。またこの4種は、公園や畑、住宅の庭等、人の生活圏の中にも侵入するため、普段から注意して生活する必要があります。

これまで当研究所では、大人向けにハブ対策講習会を行い、ハブ類がすみつかない環境の整備や、ハブ類に咬まれた時の応急処置について広く周知してきました。一方でこれらの対策は子供が実施することは難しく、子供がヘビに出会ったとき、咬まれたときに具体的にどうしたらよいかを十分に普及することができませんでした。

そこで今回、小学生を対象とした学習会を企画し、夏休みに合わせて開催しましたので報告します。

学習会を開催しました

学習会はタイトルを「沖縄にすむヘビー毒ヘビ、ハブをみわけられるようにしよう」とし、沖縄県内在住の小学校4年生～小学校6年生を対象に受講者を募集しました。日程は2023年7月26日(水)、8月9日(水)及び8月17日(木)の3回開催しました。プログラムは次のとおりです。

1. 沖縄にすむヘビ
2. ハブとその毒を見てみよう
3. ヘビ革でハブを見分けよう
4. ハブのうんちを見てみよう

プログラム1.「沖縄にすむヘビ」では、スライドを使って沖縄本島に生息するヘビの見分け方や、ヘビに出会った時及び、咬まれた時の対応を具体的に学習しました(図1)。

プログラム2.「ハブとその毒を見てみよう」では、当研究所で飼育しているハブやヒメハブ、アカマタを観察しました。さらにハブの採毒を実演し、毒牙や毒液の様子を観察しました。



図1. スライド学習の様子

プログラム3.「ヘビ革でハブを見分けよう」では、ヘビの抜け殻や死体からヘビを見分ける方法について学習しました(図2)。



図2. ヘビ革の観察

プログラム4.「ハブのうんちを見てみよう」では、ハブが糞をする様子を動画で観察しました。ハブの糞にはハブ自身の毒牙や、エサ動物であるネズミの痕跡が含まれています。糞からそれらを取り出して観察し、ハブの牙が定期的に生えかわること、糞がエサ動物を知る重要な手掛かりになることを学習しました。

来年度も実施予定です。ご興味のある方はぜひご参加ください。

【衛生科学班】